

敬和創



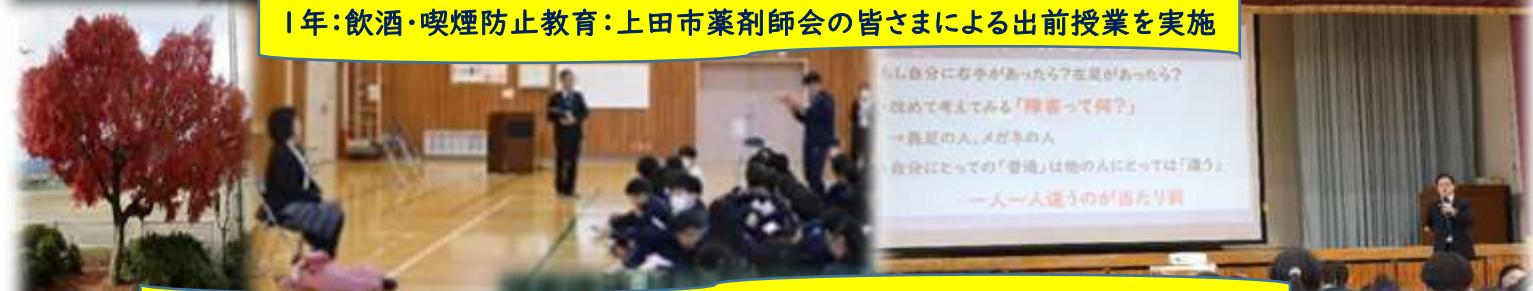
上田市立第六中学校
学校だより No.9
令和6年11月29日(金)



★2学期後半 実りの秋へ～人権同和教育, 生徒会引き継ぎなど



1年:飲酒・喫煙防止教育:上田市薬剤師会の皆さまによる出前授業を実施



3年:人権同和教育講演会「普通って何?」「視覚障がいのある暮らし～盲導犬とともに」



↑1～3 学年全ての学年で授業公開:六中ブロック後期人権同和教育研修会↓



↑引き継ぐそのときまで精一杯楽しい場を提供～第37代生徒会企画による「六中オリンピック」



25日(月)生徒会立会演説会、投票→いよいよ2学年へ引き継ぎの時 第38代生徒会正副会長の誕生へ

☆おめでとうございます!2人の作品が入賞!~誇らしい学習の成果~

写真の掲載を控えさせていただきます。

このたび、3年生女子が、「小さな親切」作文コンクールにおいて、県優秀賞となり、全国でも表彰されます。また、2年男子が家庭科で製作した防災座布団が「全国中学生 創造ものづくり 生徒作品コンクール部門」での県大会入賞、全国大会への出場が決まりました。3年生は、勇気をもって行動することで、相手も自分も嬉しい気持ちになり、幸福になることを学びました。防災座布団は座布団としての実用面だけではなく、防災教育の一面や美術的な一面もあります。作品は手染めで型をつけた布と古布を使用しています。好きな色を組合せて丁寧に製作した彼の思いが込められています。六中生でなければ出会わなかった教材、日常生活でのできごとですね。

「ありがとう」の一言で

三年 ○○ ○○

皆さんは誰かが困っているのを目にしたとき、迷わず助けることができますか。みんなが憧れる優しく誰からも好かれる主人公ならきっと何の迷いもなく助けにいくのでしょう。しかし、私は人に親切にすると迷ってしまったことがあります。

それは、雨がとても強く降っている日のことでした。その日は出かける用事があったのですが、雨の影響でまだ帰ることができないと母から連絡が来ました。しょうがないのでバスを使うしかないと思い、バス停に急ぎました。しばらくバスを待っていると、1人のおばあさんもバスに乗るためにバス停にやってきました。私はかなり待っていたので、「早く来ないかな。」と思っていました。すると、おばあさんが「傘を忘れてしまって、すぐに取りってくるからバスが来たら少し止めておいてもらえる?」とだけ言って傘を取りに行っていました。バス停には私しかいなかったのも、私がやるしかありません。公共のものを止めるのに気が引けた私は、おばあさんが早く戻ってきてほしい気持ちやバスがまだ来ないでほしいという気持ちでいっぱいでした。しかし、そんな願いも虚しく、すぐそこにバスが見えてきてしまいました。私はすごく迷いました。なぜなら、さっきのおばあさんの事情を知っているのは私だけだったからです。「別にバスを止めなくたってばれない」という考えと「バスを止めなければおばあさんに何て思われるだろう」という不安がぶつかっていました。悩んでいると、ついにバスが来てしまいました。ドアが開き、乗り込むしかいけない状況になったとき、やっと覚悟がきました。

「すみません。傘を取りに行っている人がいるので少しだけ待ってもらえませんか。」運転手の人に断られるかもしれないとドキドキしていましたが、運転手の人は優しい声で「大丈夫ですよ。」と伝えてくれました。それを聞いた途端、ホッとして全身の力が抜けました。しばらくするとおばあさんが戻ってきました。おばあさんは運転手さんにお礼を言うと私の座っている席の近くに座り「本当にありがとう。」とやわらかい表情で私と目を合わせました。

この日の出来事を私は今でも覚えています。最後のあの一言で、なぜあのとき迷ってしまったのだろうと、不思議で仕方ありません。でもこのことがあったおかげで、困っている人がいたら、私でも助けることができるということを知り、勇気をもてました。あのおばあさんには私の方が感謝の気持ちでいっぱいです。

☆UCV での放映日時:12月9日(月)4:00~4:30pm 以後、12月の毎週月曜(16, 23, 30日の同時刻に放映されます。どうぞご覧ください。)

全国学力・学習状況調査の結果より

☆3学年を対象とした「全国学力・学習状況調査」の結果から、本校の実態と課題についてお知らせいたします。

○国語→本校の平均正答率は、全国平均に対してやや下回っています。特に漢字の読み書きと「読むこと」の領域において、説明文の読解力がやや低くなっています。一方、同じ読む力でも差異があり、短歌の読解では正答率が高い結果となりました。
以下に正答率が低かった問題についての分析をお示しいたします。

漢字の問題	結果、誤答例	分 析
「みちたりた」を漢字で書く→満ち足りた	・「満」の誤字 ・「足りた」は書けるが「満ち」を「未ち」と書く。 ・無回答	・無回答率が高い。 ・類語「満足している」「充実した」などは理解できるが、「満ち足りた」という語いが分からない生徒がいる。 ・「みちたりた」と声に出したとき、発音と言葉の意味が一致しているが、文章中ではその意味の理解が不十分である。 ・「満ち足りた（気もち、生活）」などの文脈の理解が不十分である。

漢字の知識・技能を高める対策・授業改善の方向

- ・全教科・領域において言葉を大切に場面を増やしていきます。生徒が発話をする場面では「誰が・どうする」など明確に伝えるように示し、声が小さく、聞こえづらい場合にはもう一度言わせるなど、話すことのマナーについても指導していきます。また、ペアやグループで考え合い意見を交わす場面をつくっていきます。
- ・生活ノートや感想など、日常的な書く活動において可能な限り漢字を用いるよう習慣づけていきます。
- ・言葉に関する関心を高めるために、その日に学んだ漢字を用いて自分で文章を作る時間を設けたり、漢字クイズを出したりするなど、国語の授業におけるウォームアップやふり返りの場面を工夫していきます。
- ・毎日の漢字学習を継続する。単語単位ではなく「満ち足りた表情」など、文節で練習する日をつくる。【生徒】
- ・教科書の音読練習を継続し、発音と意味を結びつけて記憶に残るようにする。【生徒】

説明文読解問題	この問題に対して求められる力
説明文の中の一文について、最も具体的に説明されている一文を、4つの選択肢の中から選ぶ。	文章の全体と部分の関係に注意しながら、主張と例示の関係をとらえることができる。

説明文の読解力を高めるための対策・授業改善の方向

- 授業では、説明文の構造をつかむための方法やコツを示します。
- 1 文章全体のマッピング、各段落の役割を図式化するなど、説明文の構造を「見える化」する工夫をします。
 - 2 読解力と書く力を連携させる活動を行うことを意識し、読み取った内容について生徒同士が意見を交わす場面をつくります。例えば、グループで説明文を読み合い、その構造や内容についてまとめ、プレゼンテーションを用いて発表し合うなどの場面をつくっていきます。
 - 3 説明文の中の事実と意見を明確に説明したのち、事実と意見を区別するような演習問題を行います。

○読書の推進【生徒】

- ・図書館を活用し、多くの本に触れる機会をもつ。（読書旬間、図書委員会企画への協力）
- ・毎朝の読書の時間を大切に、15分間集中して継続する。

☆短歌の読み取り問題の正答率が高かった点について

短歌の単元において単元終末に生徒自身が短歌をつくる活動を行いました。生徒が日常生活の中で感じていることをこれまでに学んだ表現技巧を駆使して短歌にしました。その過程において生徒が主体的に学習してきたことがその後生きる知識・技能として定着したと考えられます。生徒が興味・関心をもち、自ら取り組めるような授業改善を今後もめざしていきます。

○数学→本校の平均正答率は、全国平均とほぼ同程度です。その中で、2年生で学習した「数と式」の問題と、正四面体の図から、各頂点と各辺とのかかわりを捉えて、予想できることを説明する問題においては正答率がやや低くなっています。
以下に正答率が低かった問題についての分析をお示しいたします。

問 題	この問題に対して求められる力
連続する2つの偶数を、文字を用いた式で表す。 n を整数とすると、連続する2つの偶数を、それぞれ n を用いた式で表す。 (答え: $2n, 2n+2$)	数量および数量の関係を捉え、説明する場面において、事象に即して解釈したことを数学的に表現することや、連続する2つの偶数を、文字を用いた式で表現することができる。
分 析	
一問一答の計算はできるが、文章題において数と式の性質を正しく理解し、文字を用いて説明する方法が分からない。また、問題文からどのような計算をすれば答えが出るのか分からず、式の意味を読み取るにつまづきがある生徒がいる。そのつまづきを改善するためには、問題を読み解き適切な計算方法を見つけ出す必要がある。問題の意味や内容を理解するための読解力と既習の知識・技能と結びつけて式を想起することに課題が見られる。	
問 題	この問題に対して求められる力
正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する。 (答え:□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の3倍になる。／○に入れた整数の和は、□に入る整数の和の3分の1になる。)	統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見出し、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。
分 析	
・問題の意図を正しく理解することができない。三角形は平面的に捉え、式に表すことが容易にできるが、立体になると頂点と辺の関係を立体的に読み取ることが困難になってしまう。	
今後に向けて、授業改善の方向	
・生徒が「ある図形の性質や特徴が他の図形でも同様の性質や特徴が成り立つかどうか」などの興味・関心をもちながら、練習問題に取り組むよう声をかけていきます。 ・教師は、日頃から数学的な事象を日常生活の中で捉え、活用できないか考え、生徒が興味・関心をもてるような教材づくりに活かしていきます。 ・授業での問題把握の際には、具体物(例 正四面体)を用いながら説明していきます。	

○生徒質問紙から

「将来の夢や目標をもっていますか」、「自分にはよいところがあると思いますか」、「分からないことや詳しく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫することにはできていますか」、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」について、「当てはまる」と回答した本校生徒の割合は、全国および長野県の平均に対して大きく上回っています。一方、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」については、「当てはまる」と回答した割合が全国と同等、長野県の平均を上回っているのに対し、「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した生徒の割合も全国および長野県の平均(32%程度)に対して上回っています。(37%)。この点については、昨年から学校全体の課題と捉え、秋の人権同和教育の中でも扱ってきました。全学年・全学級でのSOS教育の取り組みを現在も継続しています。(懇談会の折などに、各学年の掲示物をご覧ください。生徒の学習のあしあとを見ることがができます。学級だよりや学年通信、HPなどでもこの学習の様子を紹介しております。)今後も学年の発達段階に応じた支援を継続していきます。

スマホ(ゲーム、動画視聴)の使用時間については、全国・県の平均よりやや高めになっています。また、毎日の学習時間も「1時間より少ない」と回答した割合が全国や県よりもやや高く、家庭学習の習慣化が課題となっています。

本調査の結果を受け、今後の重点目標の決め出しや授業改善に努めながら、生徒一人ひとりに目を向けた教育実践をしていきたいと思ひます。生徒とともに学習の見通しを立て、時には生徒に任せる部分をつくりながら、生徒が自ら学習方法や既存の知識との結びつきなどに気づいていけるような授業を構築していきたいと思ひます。家庭学習については、学習方法などについて学校から可能な情報を提供していく所存です。ご家庭でもお子様が自主的に学習する時間の確保と見とどけについて、ご協力をお願いいたします。

〈文責：教頭 富山 貴子〉